

ぎかい

小国町議会だより 第161号

売店「森のくまさん」



2024.7.19

笑顔でお待ち
しております！



スマホ

からご覧
いただけます！



表紙関連記事は16ページ

小国大橋の照明 復旧決まる！！

主な内容

- | | |
|------------|-------|
| ■ 定例会・臨時会 | 2ページ～ |
| ■ 一般質問5名登壇 | 4ページ～ |
| ■ 各課所管事務調査 | 9ページ～ |
| ■ 委員会報告 | 15ページ |

6月定例会補正予算

一般会計補正予算の主な内容

総務費	職員採用リモート試験等……………53万3千円 職員採用試験をより多くの方に受験 いただくための環境をつくる
	その他委託料……………834万8千円 空調設備省エネ水準適合実施設計 LGWAN機器更新
	社会福祉扶助費……………1790万円 新たに非課税等となる世帯に対する給付金
	創農チャレンジ給付……………240万円 地域農業の担い手として、二人の新規 就農者に対しての給付金
農薬費	地域農業の担い手として、二人の新規 就農者に対しての給付金
商工費	地域経済活性化支援業務……………810万円
土木費	建設工事費……………4380万円 小国大橋照明改修等 町道代場山線舗装改良
	設備備品購入費……………320万2千円 女性消防団用小型資機材
消防費	測量調査委託料……………650万円 消防署小国分署建て替えの建設用地測量等

6月定例会 あらまし

- 6月定例会は6月6日から13日までの会期で行われた。令和6年度一般会計補正予算及び、特別会計補正予算7件、条例制定3件、財産の取得1件が一括上程された。
- 一般質問は5名が登壇し町政を質した。
- 最終日には追加議案として一般会計補正予算1件、人事案件が追加された。全議案賛成多数とし定例会を閉じた。

人事案件同意

- 小国町固定資産評価審査委員
- 渡部 孝弘 氏（再任）
小国町大字小国小坂町
 - 伊藤 玲子 氏（再任）
小国町大字あけぼの
 - 齋藤 義昭 氏（新任）
小国町大字沼沢

人 事

- ◆ 除雪ドーザ（14t級）1台
コマツ山形株式会社米沢支店
2669万4千円

財産の取得

- ◆ 小国町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正（各教育、保育施設において従事する職員配置基準を改正するため）

主な条例改正

- ◆ 小国町公の施設に係る指定管理者の指定の手続き等に関する条例の一部を改正（指定管理者の個人情報取り扱い及び秘密保持義務を定めるため）

「小国大橋」照明 LEDで復旧決まる!

4/30 第4回臨時議会

専決処分	
除雪中の物損事故に対する賠償	47万3000円
物損事故に対する賠償	4万7102円
主な補正予算	
梅花皮荘熱交換器修繕料	100万円
令和6年度町道長者原内川線道路改良工事請負契約の締結について 山和建設株式会社	
代表取締役 井上 孝	
令和7年2月14日完成予定	6765万円

4/10 第3回臨時議会

専決処分	
除雪作業中の物損事故に対する賠償	9万1300円
主な補正予算	
社会福祉扶助費	1250万円
アスネット修繕料	170万円

臨時議会

陳情

「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める陳情書

山形市薬師町2丁目6の15

新発見ビル3F

陳情者

山形県労働組合総連合

議長 萩原 圭子

ガザ地区の即時停戦のための積極的外交を政府に要求する意見書の提出を求める陳情

神戸市中央区日暮通

陳情者

3の2の3の702

山本めぐみ

医療機関・介護施設への支援の拡充と、ケア労働者の勤務環境と処遇改善を求めるための意見書の提出に関する陳情書

山形市青田南6番28号

陳情者

山形県医療労働組合連合会

執行委員長 渡辺 勇仁

代執行により沖縄を犠牲にすることをやめ「対話」にて問題の解決をはかることを求める意見書の採択を願う陳情

鶴岡市水沢字行司免43の13

沖縄に応答する会

陳情者

代表 漆山ひとみ

1. 部落有財産の処分について 2. 小国版「葉っぱビジネス」を



こ せき かず よし
小 関 和 好 議員



1 地縁組織の未来は

小関 地縁組織の構成員は、年々減少している。

高価値であった山林も今や管理も難しい状況である。解散を余儀なくされた組織に対する町の対応を聞く。

まずは相談を

町長 解散に関しては、権利者全員の同意があつて初めてなされる。ことが一般的である。部落有財産については、昭和の大合併以前の旧村議会の取り決めが、現在においても効果を有しており町全体としては複雑な状態にある。国は、認可地縁団体制度を設立しており、この制度を活用すると財産を処分することも可能である。

しかし、事案や内容に

ついて相談することが肝要であるので農林振興課に相談していただきたい。

2 小国版「葉っぱビジネス」を

もっと「わらび」の活用を

小関 本町の山菜の出荷量や「わらび園」の活用には、まだまだ可能性があり「わらび」は全国の需要に応えられる。今後の展開は。

今後も検討していく

町長 国の令和4年度の調査で小国町の「わらび」の生産量は、153トンであり、山菜の99%を占めている。昨年のわらび園の来園者は4914人と新型コロナ前の半数であつた。「わらび」は、「ふるさ

と納税」や小国町地域総合商社を軸に販路開拓に努力していく。「わらび園」については体験ツアーの商品化に向け検討していく。

商社の役割は

小関 今後は町を挙げて日本一の「わらび」の普及が必要である。「わらび園」は、大きな枠組みでの維持管理が必要である。また、山

菜の販売や体験ツアーの商品化は、小国町地域総合商社の役割が重要では。

システム化が必要

町長 維持管理や宣伝、採る人・売る人・輸送方法などのシステム化が肝要と考える。「わらび」は、本町が誇る特産品であるので努力していく。



「日本一」に町を挙げての応援を



教導の防災教育を



わた なべ しげ のぶ
渡邊 重信 議員

消防団の人員確保をどう考えている

渡邊 人口減少がもたらす影響は、安心安全なまちづくりにも大きな課題となつていく。

また、多発する災害や広大な林野火災には絶対数の人材が必要となる。今年のGW中に発生した連日の置賜管内の林野火災でも、常備消防と消防団の他、多くの方々の決死の消火活動で鎮火に至った。本町の消防団員確保をどのように考えているか。

人員確保が課題

町長 新規団員加入促進策として、町、消防分署、消防団との三者合同で町内業者を定期的に回り協力依頼をしている。協力事業所には、社会貢献活動の認知を広げ、小国町消防団協力事業所の表示証

を交付。消防団の活動に対する資機材、装備の充実など、消防団運営の支援の強化を進めている。

次世代への防災教育・育成は

渡邊 消防団活動への支援が予算執行だけに終わっていないかという感否めない。自主防災組織の早期確立をどう考え、町民の協力をどのように得るかが課題である。



地域防災向上は子供たちと一緒に

そこで、将来を担う子ども達の防災意識の向上に「こども消防団」への早急な取り組みも必要ではないか。

担い手確保にも有効

町長 子ども達の防災意識向上のための組織の立ち上げは、取り組み内容など内部で検討協議し、関係機関、教育機関と意見交換しながら進めていく。

共導のまちづくりを

渡邊 子ども達は大人の姿を見て学び、また



全国で広がる子ども消防団

子ども達に感化され大人も行動する。もっと子ども達にも興味を持ってもらうよう町長が旗振り役となる共導のまちづくりが重要ではないか。

町長 防災意識の教育は重要と認識している。今後子ども達に寄り添った防災教育、施策を推進する。子ども達とは公務で接する機会が多かったが、今後防災意識の向上に向けた「夜回り活動」など時間の許す限り、取り組んでいきたい。

1. 米坂線復旧どうする 2. 次期総合センター建設は 3. 中心部の宿泊事情は



こばやし よしみ
小林 嘉 議員



1 米坂線復旧の機運は

小林 復旧に向けて町の本気度や機運醸成が足りないのでは。

「絆まつり」を開催

町長 町はJR東日本による復旧、運営と国の関与も強く希望している。

8月31日に小国駅周



米坂線早期復旧を

辺を会場に沿線の観光団体や商工会等が連携して「絆まつり」を開催し、沿線自治体の機運醸成を図っていく。復旧の要望活動は小国、飯豊、関川、川西などの民間団体や関係機関が一体となり、住民要望をJR東日本や国に届ける活動が重要と認識する。

2 次期総合センター建設は

小林 将来経費の負担と利用する高齢者への配慮は。

町長 総工費は上限26億円を見込んでいる。

将来負担を考慮し、補助金は最大40%が交付され、残額は過疎対策事業債で対応する。償還は12年となり経費削減に努める。本年度着工後2力年での整備を想定し、令和8年春から夏の供用開始を予定している。雪下ろしが必要ない屋根構造とし、内部は段差のないフラットな平屋構造となり、高齢者や障害のある方も利用しやすい配慮する。

3 中心部の宿泊施設が足りない

小林 「町内中心部に宿泊できない」との相談があった。現状認識を聞きたい。

同様の声を聞いている

町長 5月20日から「アスネット」を一般の方が宿泊できる環境に整え、20人程度受入れ可能になった。

町中心部に宿泊施設ができれば、産業・観光振興や飲食店も含めた商業の活性化も期待できる。まずは、民間主導での整備や運営する意向があれば、その実現に向け町として支援策を検討したい。



高齢者の孤立を防ぐ 施策について



いしやま くみ こ
石山久美子 議員

安心して最後まで過ごすには

石山 小国町の高齢化率は42・3%、高齢者世帯は967世帯である。一人暮らしや高齢者夫婦だけの世帯も珍しくなく、不安を抱えながら過ごしている家族も多い。孤立を防ぐための施策を問う。

「地域包括支援センター」が窓口

町長 高齢者の二割が



健康管理センターにある窓口

要介護、要支援の認定を受けている。その九割以上が介護サービスを利用している。

町では訪問介護や訪問看護、居宅介護サービスを提供している。社会福祉協議会が主体となって実施している「支え合いホットライン事業」があり、ヘルパー等が自宅訪問を行う「安心見守りサービス事業」と「巡回訪問サービス事業」で安否確認を行う見守りの強化を図っている。

また、地域住民が主体となり活動する「地域サロン」で生きがいや居場所づくりにも取り組んでいる。

「小国町高齢者等暮らし応援事業」では冬期間の除雪の支援を行っている。

「地域包括支援センター」は高齢者等の総合相談窓口であり、健康管理センターにあるので相談してほしい。

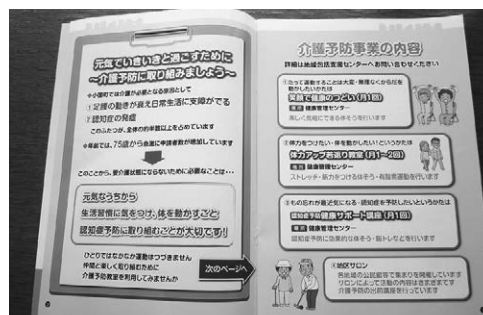
緊急時の対応について

石山 救急車要請などの緊急時は、高齢者世帯では不安でとっさの行動がとれない場合もある。高齢者の不安を取り除く施策は。

「支え合いほっとライン事業」の活用

町長 緊急時の対応は、

基本的にご家族やご親戚に対応していただくものと認識している。近隣にいない場合「支え合いほっとライン事業」における登録世帯を増やすなど、制度の充実に取り組んでゆく。災害など、避難する時に考慮すべきことをまとめた「福祉カルテ」を地域や関係機関と共有している。



高齢者のためのサービスマップ

為政者たる町政運営について



ま みや ひさ え
間宮尚江議員



持続可能な未来の小国町は

間宮

町政のリーダーとして過去8年間、その重責を担ってきたわけだが、本町の産業構造を見極め最適な産業バランスに対する施策を振り返り、重い決断は何であつたのか。

また、乳幼児、児童生徒や生産年齢層、高齢者層にとつての医療の動静は重要である。持続可能な運営ビジョンを伺いたい。

そして、若者が政治に興味を持つ、政治参加する施策の推進が、親子で住める町づくりの実現に紐帯を強めると考えるが、いかがお考えか。

ふるさとの発展と福祉向上を目指して

町長

昨今の社会経済

環境を見極め、必要な施策を適時に展開することが重要であり、全体的な決断が重いものであつた。

変化の著しい社会にあつて、人材確保や地域経済の活力向上、地域活性化を課題として引き続き的確に対応できる施策の展開と「先

を見る目」「投資のタイミング」「町民の意見を聞く」を政策立案の視点とする。

次に、小国町立病院においては、これまでの医療サービスの規模や内容を維持しながら一次医療機関としての責務を果たしていくことが肝要である。



◀次世代につなぐ小国町



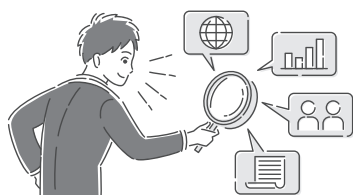
▶併設型介護医療院の居室

「小規模介護医療院」の併設は、高齢化の進行に伴う介護・医療の需要に対応し、効率的なスタッフの配置を目指すものであり、地域医療の確保を図ることにより、持続可能な町政に繋がる。

最後に、自分が住む町の産業や自然環境、経済状況を知り、実社会での共生の仕組みを理解することは重要である。

本町の保中小高一貫教育における郷土愛を醸成する学習では、まちづくり、地域づくりへの興味・関心を持ち「自分ごと」として考えられる力を養うよう取り組んでいる。これが小国町の地域活性化や活力向上を図る基盤となり、私が目指す「親子で住めるまちづくり」の実現になるものと認識する。

各課所管事務調査



5月13日、令和6年度の主要施策について、各課より事業の概要説明を受け質疑を行った。

総務企画課

- 職員採用試験にリモート試験を導入。
- 職員の自衛隊体験入隊を新たに実施する。
- 投票区を13に減らす。
- 役場庁舎西面改修、空調改修を計画している。
- 駐在員の負担軽減として、昨年同様、冬場の文書配布を月1回にする予定である。
- 各種証明などのコンビニ交付システムの構築を進める。
- 米坂線復旧に向けて、県と沿線市町村により8月末に「絆まつり」を開催予定。
- 次期総合センターの整備においては、実施設計と建設予定地とする旧小国保育園の解体が完了。令和6年度、本体工事に着手。

Q 「絆まつり」の内容と参加自治体の状況は。

A 新潟県を含む沿線市町村が参加し、それぞれの魅力をアピールすること、米坂線復

旧の機運を高めるものである。事務局は山形県が担当し、物産販売やイベントなどを行う予定。日程は8月31日に決定。場所は小国駅前周辺。



次期総合センター工事着手

Q おぐにマルチワーク事業協同組合への支援の内容は。



A 事業費全体の2分の1を町が支援。町が支援する補助金の2分の1を国が負担している。マルチワークの人数に応じて事業費は増減する。派遣先（組合員）は17事業者あり、調整しながらマルチワークを派遣している。

Q 地域おこし協力隊の定住率はどの程度か。

A 国の平均に比べると低いが、各種特定プロジェクトでの協力隊の活用は進んでいる。任期終了後には移住につ



NTTによるDX説明会

ながら各種支援も行っている。

Q 自衛隊の体験入隊の目的は。

A 職員研修として実施するものであり、生

活規律や仲間意識の醸成、体力向上等を目的としている。

Q 選挙に関わる投票時間、投票区の見直しに伴う移動手段の検討は。

A 今年度は、監視カメラを設置し、農作地への侵入経路を確認しながら、罾の仕掛け位置などへの活用を想定している。

Q DXによる鳥獣被害対策は。

A 移動手段の検討については現状を十分に確認する必要がある。その上で投票所の変更に伴う影響を整理し、適切な対応を検討したい。

Q 第5次総合計画基本構想の進行管理に関わって、町史編さんの管理は。

A 町史編さんについて令和6年度での実施は予定していないが、課題として認識している。おぐにふるさと文化館「百石」の事業と連携しながら検討していきたい。

町民課

● 戸籍法の改正により、戸籍の氏名に振り仮名が必要になることからシステム改修する。
● 国のガバメントクラウドへの移行にかか



基本操作を教わる女性消防団員

● 消防団員は令和6年4月現在316名である。
● 費用を計上。

Q 全国女性消防操法大会への出場が決まっている女性消防団の練習状況は。

A 操法大会は令和7年の秋に開催予定。大会への取り組みとして、令和5年度に可搬式ポンプを購入。3月末から月2回訓練を実施。出場メンバーは20名ほどの女性団員の中から訓練を進めながら決める。

Q 大規模災害が多発しているが、町の危機管理担当として必要と考える事業は。

A 町内では協定を結んでいる2つの保育園と2つの高齢者施設が福祉避難所を担っている。それぞれの管理者と課題を共有し予算への反映や環境整備を行っている。

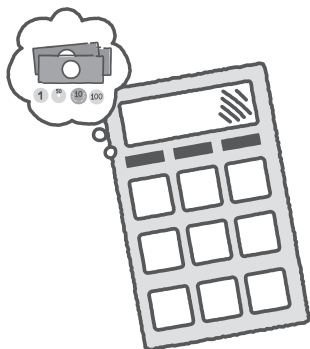
Q 長期避難の場合、仮設住宅の問題もある。避難先でのシミュレーションが必要なのではないか。

A 仮設住宅は災害救助法に基づき県が被災者に供与し、町は土地の提供を行う。定例で県から候補地の照会があるので、水害、地震等のハザードマップ上に色がついておらず、ある程度の広さを確保できる町有地等を報告している。

税務課

● 税制改正により、令和6年度の個人住民税において、本人と対象配偶者及び扶養家族一人につき1万円を所得割の額から差し引く定額減税が実施される。

● 平成26年度から個人住民税の均等割に加算されていた東日本大震災からの復興分の県民税500円、町民税500円の徴収は昨年度で終了。



また、令和6年度から国税の森林環境税の課税が始まり、一人当たり千円の国税が個人住民税と併せて徴収される。



健康まつり 筋力診断を実施

健康福祉課

● 介護職なかま創出事業では、介護職へのポジティブイメージの浸透を図るため、小国高校生を対象に県の出前講座を実施。子育て支援アプリの運用を開始。高齢者の保健事業と介護予防の事業については、

Yuiの協力のもとフレイル予防教室を実施。
● 令和6年度は第3期小国町こども子育て計画を策定予定。

Q 介護職なかま創出事業について、外国人や介護ロボットの導入の方向性は。

A 外国人・ロボットについては具体的な方向性はないが、移住者や小国高校生に働きかけて、就職につなげていきたい。

Q 認知症総合支援事業の成果と今後の展望は。

A 養成講座やサロンで正しい知識を学んだことで、適切な受診が増加している。今後も地域での普及啓発を進める。



介護医療院 居室

Q 介護等級の区分変更の基準は。

A 介護認定調査と意見書に基づき審査会で認定される。実際は、主治医に状況を伝えながら、ケアマネジャーに相談していただいた。

町立病院

- 9月以降に経営強化プランの改訂を予定。
- 町民に開かれた病院を目指し、「ほっと通信」の発行や、いやしの園見学会を実施。
- 介護医療院は3月29日に県より開設許可



留学生の寮

を受け、療養床19床を設置。

● 新たに糖尿病特別外来を設置。

● 一般撮影システムや医療機器の更新を予定。

● 災害に備えた無停電

装置、酸素発生機を設置予定。

Q ほっと通信は全戸配布できないか。

A 全戸配布は駐在員の手間や印刷代のた

め難しいが、希望者には直接届けるようにしている。

介護老人 保健施設

● 職員の研修を充実させ、介護医療院へのスムーズな移行を目指す。

Q 温身の郷の定員は50名だが、現在の状況は。

A 現在は24名で、入所待ちは実質0名である。

Q 50床による運営は今後も続けていくのか。

A 温身の郷は令和8年度まで定員50床で運営する予定。通所リハビリは今後も継続していく予定。

教育振興課

- 給食費の高騰を支援するために値上げ分の約半分を補助。
- 小国高校の県外留学生を、引き続き受け入れる。
- おぐにふるさと文化館「百石」は、トイレ改修のほか、Wi-Fi環境を整備する予定。
- 町主催の3大スポーツ大会や各競技大会について、スポーツ協会や地域の体育協会、各競技団体との連携を図りながら実施。
- 国の委託事業を活用して休日の部活動の地域移行について、調査・研究に取り組む。

Q 部活の地域移行は今年度始まっているのか。

A 国の委託事業であり、国と県、町の契約が締結していないため、スタートしていない状況。

Q コロナ禍もあり、地区スポーツ協会の動きが止まっているのではないのか。小中学生が参加してもらえるよう

A 令和5年度は地区スポーツ協会との意見交換会を通じ、地区の意向を汲み入れながら内容を改めた。今後とも多くの町民が参加できるように協議しながら事業を展開していく。



おぐにふるさと文化館「百石」

地域整備課

- 小国道路については、地元自治体として各種説明会補助や国への要望活動などを実施。
- 町道長者原内川線は、今年度も工事を進めるが、計画し、令和7年度で小玉川集落

から樽口峠入口まで施工し完了の予定。

Q 水道事業において経営戦略改定支援業務委託の内容は。

A 経営戦略を改定するにあたり、主に会計士など専門家に業務を委託するものである。



進む高規格道路工事

産業振興課

● 旧「ゆゝゆ」跡地を活用した、出羽蒸留所株式会社によるウイスキー製造については、設備は整っており、人員確保を進めているようである。

● また、貯蔵場所として、旧白沼小中学校体育館を使用する予定で調整中。
● 地域経済活性化支援事業について、事業の進め方を現在、商工会と協議中である。
● 5年ぶりとなる花火大会を開催する。



森林サービス産業で経済の循環を

農林振興課

● 有害鳥獣対策として、センサースタンプと監視システムを導入する。
● 森林の所有者や境界の明確化にむけ、国、県と共同で森林資源の解析を行う。
● 田沢頭ため池の浚渫（しゅんせつ）工事を行う。
● 多面的機能支払事業は、支援を継続する。
● 旧「人・農地プラン」に該当する地域計画を策定予定（令和7

Q 旧「ゆゝゆ」の温泉施設の解体予定は。

A 令和7年度を予定している。

Q 森林サービス産業事業の進捗具合は。

A 企業向けの滞在型プログラムを作成し、まもなく販売を開始予定。

年3月まで全市町村が策定）

Q 田沢頭のため池は、雨不足で水が足りない状況である。今夏が心配。対応は。

A 土砂が流入・堆積しているため起債事業で浚渫を行う。現在、県と調整している。

Q 鳥獣駆除の事故を踏まえてどういった対策をとるのか。

A 鳥獣被害対策実施隊内で安全対策、注意事項について情報共有を行い、それぞれの現場で対策している。また、安全・技術研修会を開催するとともに、ネットワーク会議を通じて、安全対策を講じるよう指導している。



水不足への対応を急がれる田沢頭のため池

令和6年度 委員会活動内容
町の重要課題について
調査を行います

総務厚生常任委員会

- 1 白い森の国を担う「人」づくり
◆ 特定地域づくり事業協同組合支援事業(継)
◆ 次期総合センター建設事業(新)
◆ 地域づくり支援員導入事業(新)
- 2 白い森の魅力を磨く
「環境」づくり
◆ 高齢者等暮らし応援事業(継)
◆ 公共交通に関する取り組み(継)
- 3 白い森を舞台とする活き活きとした「暮らし」づくり
◆ 健康増進事業(継)
◆ まちづくりパートナーシップ事業(継)
◆ 病院併設型小規模介護医療院について(新)
- 4 持続可能な行財政運営
◆ 自治体DX推進事業(継)

文教産建常任委員会

- 1 白い森の国を担う「人」づくり
◆ 小国高校県外募集支援事業(継)
◆ 高校生の地域留学推進のための高校魅力化支援事業(継)
◆ 保小中高一貫教育支援事業(継)
◆ 歴史民俗資料館整備事業(継)
◆ 競技スポーツ振興事業【中学校部活動地域移行】(新)
- 2 白い森の魅力を磨く
「環境」づくり
◆ 有害鳥獣被害対策事業(継)
◆ 除雪事業(新)
- 3 白い森を舞台とする活き活きとした「暮らし」づくり
◆ 観光施設管理運営事業(新)
◆ 白い森みらい創生事業(継)
◆ 地域特産品販売強化支援事業(新)
◆ 森林サービス産業推進事業(継)
- 4 持続可能な行財政運営
◆ ふるさと納税事業(継)

広聴広報常任委員会

- 1 議会議員と語る会の開催
3 団体(各種団体)
- 2 議会だよりの発行
(7月・10月・2月・4月)
- 3 研修
県町村議会議長会広報研修会



西置賜行政組合報告



令和7年度完成を目指し建て替え決定
横川ダム工事事務所
を取得し消防小国分
署として業務を行っ
ていたが、老朽化・
耐震強度の問題から
令和7年に建築工事
に着手予定となった。
予定地は同一敷地内
として、建替え後、
現庁舎を解体する。

がんばってます!!



「お母さん食堂 あいあい」にて

プロフィール

氏名 今 成美

住所 小国町大字舟渡

勤務先 道の駅

「あいあい」

家族構成

両親・祖母・
兄の5人家族

Q 道の駅で仕事に従事されて長いのですか？

A はい。地元の高校を卒業後、道の駅に就職しました。昨年、商工会から十三年間の永年勤続功労賞をいただきました。

Q 道の駅に就職を希望した理由は？

A 料理を学べることと、接客業を希望して決めました。地元で就職できて、今は本当に良かったと思います。

Q お仕事は、主にどのような内容ですか？

A お母さん食堂あいあいのホールや厨房と、売店「森のくまさん」では、レジや棚だしをしています。「ぶな茶屋」では、厨房で仕事をしています。



「ぶな茶屋」での様子

Q いつも笑顔でお仕事、楽しそうですね。

A 仕事中の会話も和気あいあいとしていますよ。山菜料理もたくさん教えてもらいました。お客さんとの会話も楽しいです。あまり「大変だなあ」と思うことはないです。忙しい時も楽しいなって思うようにしています。

Q 好きなことは？

A 家族とテレビでスポーツ観戦をすることです。横根のハーフパイプに大

好きな平野歩選手が来たときはテンションが上がります。

Q うれしかったことは？

A お母さん食堂でリピーターのお客さんに「また来たよ」とか、料理をほめてもらえることです。でも、コロナ禍の時は食堂を閉めていたので、楽しみにしてくれていた常連さんたちには、申し訳なかったです。



「森のくまさん」でお仕事中

Q 隣接の横根スキー場では、ニッコウキスゲが6月に見ごろを迎えていましたね。

A スキー場の斜面一帯に約7000本植えられていて、展望台からの景色

はとても美しいです。遊歩道を歩いて楽しむお客さんも多かったですね。これからも花が増えるので、毎年楽しみです。



「お母さん食堂」のみなさん

ありがとうございました。
(文責 問宮)

お詫びと訂正

第159号（2月1日発行）16ページ、「がんばってます!!」の記事に誤りがありました。

かめき

(誤) 吉永亀喜氏

きよし

(正) 吉永亀喜氏

お詫びして訂正いたします。

次は9月定例会です。傍聴においでください。

編集後記

ニッコウキスゲ（日光黄菅）和名は禅庭花といわれ、朝に開花すると夕方にはしぼんでしまう一日花であることにちなみ、その花言葉は「日々新たに」とされています。

また、栃木県日光市の戦場ヶ原に多く自生していて、そこを中禅寺の庭に見立てたことが、和名の由来とされています。

「朝に目覚め一日を過ごし、また翌日を迎える。一日一日を新鮮な気持ちで迎える」とニッコウキスゲからメッセージが送られているようです。

今年も厳しい暑さが予想されますが、熱中症予防に十分に配慮され、新たに廻る季節も町民皆様と迎えられるように、議員一同お祈り申し上げます。

問宮（記）

発行責任者

議長 長 安部 春美
副議長 委員 伊藤 弘行
委員 石山 久美子
委員 柴田 伸也
委員 間宮 尚江
委員 小関 和好
委員 遠藤 和彦

副委員長

遠藤 和彦